

ロシア(極東)

健闘している極東経済

2015年上半期の極東の鉱工業生産は対前年同期比4.4%の増加で、全国平均が2.7%の減少を記録したのと対照的である。資源産業中心のサハリン州が9.7%、サハ共和国が6.3%増加したことが寄与している。これらの地域では、鉱工業の構成部門のうち、鉱業部門の増加率が大きく、それぞれ対前年同期比で10.3%、7.8%の増加となっている。その他の連邦構成主体でも鉱業部門が好調である地域が多く、極東全体として鉱業部門は7.0%増加したのに対し、製造業部門は4.6%の減少、電気・ガス・水道部門は1.0%の増加にとどまった。

その他の経済指標でも、極東地域は全国の数字よりも、若干良い結果となっている。固定資本投資は相変わらず減少傾向にあるものの、2015年上半期の減少幅は対前年同期比0.2%にとどまり、全国平均の減少幅よりもかなり小さい。小売売上高でも同様に全国の落ち込みよりも小さい。実質貨幣所得は、全国的には減少している中で、極東地域では増加を記録した。

上半期の輸出額は対前年同期比20.4%減少(全国では28.9%減少)した。主要輸出品である鉱物性燃料(HSコード27)は、輸出量(トン)では9.4%増加したものの、金額では22.4%減少した。国際的なエネルギー資源価格の低下が影響している。

ロシア全体の第2四半期GDP成長率が対前年同期比4.6%のマイナスを記録するなど落ち込みの激しい中で、極東地域も厳しい状況にはあるものの、相対的には健闘していると言える。

東方経済フォーラム

2015年9月3日～5日に、ウラジオストク市で「第1回東方経済フォーラム」が開催された。ウラジーミル・プーチン大統領の肝いりで開催された大規模国際会議である。既に10年にわたり開催されて、国内外での認識も高まっている「サンクトペテルブルク国際経済フォーラム」と同列の

重要なイベントにしようとの意図がある。その背景には、「アジア太平洋地域は世界経済の原動力であり、重要な市場である(フォーラムでのプーチン大統領の発言)」との認識がある。極東地域はもちろん、ロシア全体の発展のためにもアジア太平洋地域の活力を取り込む必要があるという考え方は、プーチン大統領の信念とも言えるものだ。

主催者発表によれば、会議登録者数は2,520人、うち実際に参加したのは1,824人とのことだ。フォーラム期間中に、80件以上の契約が交わされ、その総額は1.3兆ルーブル(約2.3兆円)に上った。これらを踏まえて、ユーリ・トルトネフ極東連邦管区大統領全権代表は、会議は成功だったと総括し、来年以降の継続を言明した。

世界的な投資誘致競争の中で出遅れたロシア極東に国内外からの投資を呼び込むために、多くの耳目を集めるイベントを開催することは必要なことだと理解する。多くの参加者があったことはそれだけで成功と言えるだろう。ただし、「成約」については、「見せかけ」の数字との感が否めない。大型の契約として例示されているものの多くが、ロシア国内企業が主体のプロジェクトで、これまでも話題に上りながら実現までに時間を要している案件である。外国企業との間では、拘束力のある契約ではなく、協力の意向を確認しただけの覚書を交わした事例が大半のように見受けられる。例外的に目を引くのは、東シベリア有数の油田であるバンコール油田の権益の15%を、ロスネフチがインドの国営石油会社ONGCに売却した契約である。しかし、このことは逆にエネルギー資源依存の根深さを物語っているとも言える。

単なる原料供給地とは違う形でアジア太平洋地域経済の分業プロセスに組み込まれるためには、製造業やサービス業での国際協力が不可欠である。これらの分野でのプロジェクトは、一件当たりの規模では、国家的エネルギープロジェクトよりも一桁も二桁も小さいかもしれない。昨年以降、矢継ぎ早に打ち出されてきた新型経済特区やウラジオストク自由港などの仕組みは、こうしたプロジェクトの実現を目指したもののはずだ。こうした点に目を凝らしていきたい。

(ERINA調査研究部長・主任研究員 新井洋史)

鉱工業生産高増減率(前年同期比%)

	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	14・1-3月	14・1-6月	15・1-3月	15・1-6月
ロシア連邦	6.8	0.6	▲ 9.3	8.2	5.0	3.4	0.4	1.7	1.1	1.5	▲ 0.4	▲ 2.7
極東連邦管区	35.1	▲ 0.2	7.6	6.5	9.1	3.0	3.3	5.3	10.5	9.2	5.9	4.4
サハ共和国	0.5	4.2	▲ 13.6	17.6	16.1	9.0	6.2	4.4	6.7	2.4	3.2	6.3
カムチャツカ地方	0.6	0.9	▲ 0.2	8.6	5.6	5.2	▲ 2.9	▲ 1.0	▲ 1.1	3.0	▲ 2.2	▲ 0.6
沿海地方	2.1	14.6	▲ 2.7	13.6	21.0	5.3	4.4	5.0	▲ 8.7	▲ 6.2	12.0	4.4
ハバロフスク地方	10.1	▲ 7.4	▲ 6.8	21.3	16.9	9.6	2.2	0.5	1.1	0.7	▲ 1.0	▲ 2.5
アムール州	2.6	11.4	11.4	0.1	20.0	8.6	6.9	▲ 3.9	8.5	6.2	▲ 14.8	▲ 10.4
マガダン州	▲ 9.0	2.1	5.8	3.3	8.3	10.0	3.0	7.8	9.6	3.6	▲ 4.8	▲ 0.1
サハリン州	2.3倍	▲ 9.2	26.6	0.0	3.3	▲ 5.3	▲ 0.5	5.5	20.0	16.9	14.6	9.7
ユダヤ自治州	22.7	18.6	▲ 18.8	2.3	0.1	4.1	2.6	15.6	8.7	15.3	▲ 0.9	▲ 10.1
チュコト自治管区	▲ 2.3	77.4	16.3	▲ 9.7	▲ 12.9	▲ 6.5	16.6	34.2	81.7	87.0	▲ 3.3	▲ 11.8

(出所)『ロシア統計年鑑(2012年版、2013年版、2014年版)』;『ロシアの社会経済情勢(2014年3月、12月;2015年3月、6月)』(ロシア連邦国家統計庁)。

